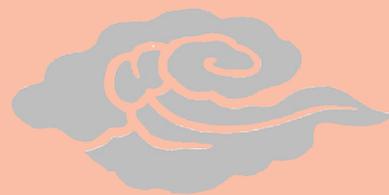


# 建設会報 いずも



No.134

2021年 新春号



## 表紙の言葉



今年、出雲地区の節分祭は新型コロナウイルスの感染拡大予防による三密を避けるため、各地の神社や福祉施設では恒例の豆まきが中止や規模縮小を余儀なくされています。

昨年は「鬼滅の刃」や神楽の厄祓い演目「鍾馗」で活躍した鬼たちも、今年の節分祭では出番がなくお家でひと休みすることになりました。

「福は内 鬼も内 人も内」人混みを避けるよう心がけ、一日も早いコロナの収束を願うばかりです。

えと文 / 渡部良治

# Contents

- 
- 01 巻頭言 中筋 豊通〔一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会会長〕
- 
- 03 新年のご挨拶 竹内 慶了〔国土交通省出雲河川事務所長〕
- 
- 04 波多江 賢二〔厚生労働省出雲労働基準監督署長〕
- 
- 05 両見 信宏〔出雲警察署長〕
- 
- 06 奥村 恭〔出雲県土整備事務所長〕
- 
- 07 令和2年度 優良工事等表彰 表彰一覧
- 
- 09 優良工事知事表彰を受賞して 岡田 明久〔大福工業(株)〕
- 
- 10 令和2年度 春の叙勲 旭日双光章 長岡 秀治〔(株)フクダ〕
- 
- 11 令和2年度 秋の叙勲 旭日双光章 今岡 余一良〔今岡工業(株)〕
- 
- 12 島根県各種功労者表彰 内藤 和雄〔(株)内藤組〕
- 
- 13 岩成 健治〔岩成工業(株)〕
- 
- 14 年男の抱負 磯田 真左一〔山陰建設工業(株)〕
- 
- 15 三原 眞治〔(有)ミハラ〕
- 
- 17 安全研修会 伊藤 康孝〔安全委員会 (有)伊藤工事〕
- 
- 18 経営研修会2020 山根 強〔経営改善研究委員会 (有)山根建設〕
- 
- 19 社会貢献活動 インターンシップの受け入れ事業～社員教育の場ととらえて～ (株)トガノ建設
- 
- 21 インターンシップ体験談
- 
- 23 編集後記 三島 一男〔経営改善研究委員会(ミシマ産業(株))〕
-

令和3年 年頭所感

かのとうし

■ 辛丑年「焦らず、慌てず、あきらめず！」



一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会

会長 中筋 豊通

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年は辛丑年、「辛」は同音の「新」につながり、植物が枯れて新しい世代が生まれようとする状態です。「丑」は「紐」（ちゅう：ひも、からむの意味）で、芽が種子の中で、まだ伸びることが出来ない状態を表しています。また、指をかぎ型に曲げて糸を撚ったり編んだりする象形ともされています。

一方、「牛」は、古くから農作業や物を運ぶ時の労働力として、我々の生活に欠かせない動物でした。「勤勉」「誠実」を象徴していると言われていています。また、十二支の中で最も動きが緩慢で歩みが遅い生物です。

これらを総合すると、丑年は、いろんなことが「絡み合う年」。さらに、エネルギーを蓄えている年であり、結果を求めるのではなく、基礎を積み上げるときであり、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年であると教えています。

ところで、近年、大きな災害、特に豪雨災害・台風災害が続いていましたが、7月の熊本豪雨で球磨川流域の被災はありましたが、例年に比べて災害が少ない一年でした。やはり昨年、何といたっても『新型コロナウイルス』が猛威を振るい、世界を震撼させた年でした。いつになったら終息するのでしょうか、年末、東京・北海道・大阪の感染拡大、第3波到来か、まだまだ予断を許さない状況です。3密を避け、手洗い、消毒、マスクの着用等々しっかりコロナ対策を実行して行きましょう。

そんな中、政府は、新型コロナウイルス感染拡大を受けた追加経済対策を決定しました。3つの大きな柱で、事業規模73.6兆円にもなります。1つ目がコロナ感染拡大防止対策に6兆円、2つ目がコロナ後に向けた経済構造の転換と好循環の実現に51.7兆円、3つ目が防災・減災、国土強靱化の推進に5.9兆円、その他に今後の備え



として10兆円。3次補正と21年度予算と一体的に使う「15ヶ月予算」として、切れ目のない財政出動で景気回復に注力する姿勢を示しています。

コロナで、人の動きが止まり、航空業界、観光業界、宿泊・飲食・サービス業界等が大打撃、多くの企業が倒産に追いこまれました。また、夢をもって入った大学生達もコロナが直撃、通えない、アルバイトも出来ない、学費が払えない。退学を余儀なくされた学生も多く生まれました。

我々建設業界は、幸運なことに、どうにか生き延びることが出来ましたが、国・県・市町村、ともにコロナ対策に追われ、財政がひっ迫。公共投資、社会資本の整備を後回し、企業も経営状況が悪化、設備投資を控える事でしょう。結果、仕事が少なくなれば、大手・準大手が地方へ触手を伸ばして、受注競争の激化が予想されます。

コロナの他に大きな事件と言えば、やはりアメリカ大統領選で、民主党のバイデンが共和党のトランプに勝利したことでしょう。アメリカ一国主義から、融和・協調へ移行していくのでしょうか。対日外交もオバマ政権同様の「実務的な関係を重視」すると見られています。一方、エネルギー政策は環境重視と規制強化を掲げているので、脱炭素社会実現に舵を切ってくるでしょう。日本も、安倍政権から菅政権へ「国民のために働く内閣」を目指し1年間の任期を頑張っていくでしょう。

会員の皆様、今年は結果を求めるのではなく、基礎力・体力を付ける年です。「焦らず、慌てず、あきらめず！」コツコツと努力を積み重ねて行きましょう。

素晴らしい明日を信じて。

今年もよろしくお願いたします。

ありがとうございました。



国土交通省中国地方整備局  
出雲河川事務所

所長 武内 慶了

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

斐伊川水系では、斐伊川・神戸川治水事業3点セットのうち、上流の尾原ダムと志津見ダム、中流の斐伊川放水路はすでに運用を開始しており、洪水時には水位低減効果を発揮しているところです。残る下流の大橋川改修及び中海・宍道湖の湖岸堤整備等につきましても、地域の皆様のご理解を頂きつつ、整備を進捗させ、一日も早く3点セットが完成するよう努めて参ります。

近年、平成27年9月関東・東北豪雨、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風等、毎年甚大な風水害が発生しています。また、昨年におきましても令和2年7月豪雨により、九州地方を中心として大規模な浸水被害が発生しました。出雲河川事務所としても緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の派遣など災害対応に全力で取り組んできました。

また、今後、気候変動による降雨量の増大、水害の激甚化・頻発化が予測されていることから、河川管理者等による治水に加え、あらゆる関係者により流域全体で水害による被害を軽減させる「流域治水」への転換を図っていくこととしています。斐伊川水系におきましても、流域全体で実施すべき流域治水対策の全体像を「斐伊川水系流域治水プロジェクト」として策定するため、関係自治体等と連携し、「斐伊川流域治水協議会」を昨年7月に設立したところです。本年3月を目途に本プロジェクトを策定し、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策を加速させ、安心・安全な地域づくりに努めて参ります。

さらに、斐伊川流域の地域振興を目指して、まちづくりと一体となった良好な河川空間の整備を行う「かわまちづくり」、尾原ダムと志津見ダムの水源地域ビジョン、生態系ネットワークの形成によるガンやハクチョウ等の大型水鳥類が舞う魅力的な流域づくりなどの様々な取り組みを、関係者と連携し推進して参ります。

地域の安全・安心を守り、経済を支えているのは、社会インフラであり、それらの整備、維持管理を現場で担われている地元建設業の皆様です。依然として続くコロナ禍において、様々な場面で制約が求められる状況であっても、地域防災力の向上を図る上では、災害時の即応性はもとより、長大な堤防の管理などの平常時の維持管理が重要であることには変わりはなく、地元精通した建設業に携わる皆様のお力が不可欠です。若手技術者の育成・確保や女性技術者の積極的な登用、ICTの更なる活用などを通じて、建設業の持続的な発展を期待しております。

最後に、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



厚生労働省島根労働局  
出雲労働基準監督署

署長 波多江 賢二

明けましておめでとうございます。新年を迎え、心からお慶び申し上げます。

貴協会並びに会員の皆様方におかれましては、労働基準行政へのご理解、ご協力、労働災害防止活動へのご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年新型コロナウイルス感染症の猛威により、我が国においても4月に緊急事態宣言が発令され、営業の自粛や移動制限などにより経済活動の停滞を余儀なくされるなど、新型コロナウイルスによる感染症の恐怖や経済に与える影響の大きさを思い知らされた1年でありました。

コロナ感染症は、最初に確認されてから既に1年以上経過しましたが、現在も未だ終息には至っておらず、当分の間はコロナとの共存で新しい生活様式を継続していくことになりませんが、年内早期に終息に向かうことを願っています。

なお、職場におけるコロナ感染症対策は、労働衛生管理の一環としても必要であり、厚生労働省では「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」を作成していますので、みなさま方の職場においても、このチェックリストを活用するなどし、引き続きコロナ感染症対策をお願いいたします。

さて、働き方改革関連法である改正労働基準法が一昨年施行され、時間外労働の上限規制等が導入されたところではありますが、一部猶予の対象となっていた中小企業については昨年4月から適用となり、建設事業についても適用まで残りあと約3年となりました。

時間外労働の上限規制につきましては、説明会や戸別訪問などで周知を行ってまいりますので、施行日までに対応できるようご準備方お願いいたします。

労働災害の発生状況につきましては、当署管内全産業における、昨年（1月から11月末までの速報値）の休業4日以上労働災害の発生件数は212件で対前年比+9件、うち死亡災害が1件発生しています。

この死亡災害は、伐木作業において、伐倒していた枯れ木が途中から折れ、被災者の頭部に落下し被災したものです。

発生原因等は現在調査中ですが、被災者のご冥福をお祈りするとともに、山林等で伐木作業を行う際は、労働安全衛生規則に則った安全な作業をお願いいたします。

災害の型では、建設業で1番多かったのは従前と変わらず墜落・転落災害でした。

建設業においては高所での作業が多いことから、引き続き労働安全衛生規則に則った墜落・転落防止に係る措置をお願いいたします。

被災者の年齢別では、60歳以上の高齢者の割合が約3割を占めています。

加齢に伴う身体、精神機能の低下による労働災害の発生リスクを低減させる対策にも取り組んでいただけると幸いです。

結びに、貴協会並びに会員の皆様方の益々のご発展、ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



島根県出雲警察署

署長 両見 信宏

明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

会長をはじめ皆様方には、平素から暴力団排除活動はもとより、警察行政各般にわたりご理解・ご支援を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年はコロナ禍による在宅勤務の推奨、3密の回避、「新しい生活様式」の実践など、年初には想像も出来なかった事態となり、今なお厳しい現状にあります。

そうした中において、島根県内及び当署管内の治安情勢は、関係行政機関の皆様のおかげをもちまして、治安のバロメーターと言われます刑法犯認知件数はピーク時の3分の1以下を維持しており、数値的には良い傾向に向かっていますが、新たな手口による特殊詐欺被害などが後をたたない状況です。

全国の暴力団情勢に目を向けてみますと、10年前に比べ構成員等（含む準構成員）は半数以下に減少しているものの、六代目山口組から離叛して出来た神戸山口組、さらには神戸山口組から分裂した任侠山口組（絆会）による対立抗争が全国各地で発生しています。

昨年5月、岡山市内での対立抗争事件の発生を受けて、当県公安委員会は暴力団対策法に基づき、六代目山口組と神戸山口組を「特定抗争指定暴力団」に、松江市内を「警戒区域」として指定し、活動を厳しく制限しております。

島根県内には、六代目山口組二次団体の傘下組織3団体（構成員等約80名）が事務所を構え、常に資金源の確保・獲得のために動いております。

全国的には特殊詐欺への関与の他、飲食店等からみかじめ料名目で現金を集金するなどの伝統的な資金源獲得活動はもとより、建設関係では、業者を取り込んで個人の会費名目での現金徴収、公共工事への派遣事業など巧妙な資金獲得活動を展開しております。

こうした情勢の中、ここ出雲市においては、皆様のご協力により長年にわたって、暴力団事務所の進出を許しておりません。

これは協会の皆様をはじめ、市民の皆様、出雲市などの関係機関、各企業の方々などが警察と一体になって、暴力団排除活動に取り組んでいただいている成果であります。

皆様方には、引き続き、「暴力団追放三ない運動+1」

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない
- 暴力団と交際しない

の実践をお願いします。

出雲警察署では、署員一同、暴力団等反社会的勢力を根絶するための活動を強力に推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。



島根県出雲県土整備事務所  
所長 奥村 恭

新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方におかれましては、新春を晴々しいお気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、出雲県土整備事務所が取り組む社会基盤の整備や施設の維持管理に対し、格別のご理解とご協力をいただいております、深く感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナ一色の年でありましたが、今年は、オリンピックイヤーであります。

ここでは、当事務所が推し進めてきました主要事業のうち、完成の時期を迎えたものや新しく始めたものなどについてご紹介いたします。

まず一つ目は、平成25年に完成した斐伊川放水路に関連する内水対策事業についてであります。平成23年度から10年間の集中投資を地域にお約束し、新内藤川、赤川、塩冶赤川及び午頭川の改修事業を行ってまいりました。令和2年度が10年目最終年度であります。地権者の皆様、地域の皆様にご協力をいただき、暫定改修ではありますが、概ね予定通りに完成いたします。

二つ目は、平成15年度に事業着手し、平成17年度に工事着手しました一般県道矢尾今市線大塚工区についてです。令和2年12月26日に全線開通いたしました。平成26年3月に供用開始した一般国道431号東林木バイパスの整備効果を高め、市街地北部の渋滞緩和に寄与するものと考えております。

一方、新しく始めた事業もあります。

神門通りの街路事業については、平成28年に第一期区間が完了しました。令和2年から第二期区間の工事を始めており、この区間において「宇賀橋」の架け替えを予定しております。現在、仮橋を含めた迂回路の工事中であり、今後、色々な形の交通規制の繰り返しなど、ご不便やご迷惑をお掛けしますが、地域の更なる活性化のためご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

この他、主要地方道出雲三刀屋線などの幹線道路整備、物流強化のため出雲河下港整備、農業基盤強化のため山王川整備などを引き続き推進してまいります。そして、生活道路の整備や橋梁の耐震化・長寿命化、道路の落石対策にも取り組み、出雲圏域の安全・安心の確保につながる社会基盤の充実を図ってまいります。

今後も、皆様の強力なお力添えをよろしくお願いいたします。

終わりになりますが、令和3年において、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の益々のご発展と会員の皆様の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

何卒、本年もよろしくお願いいたします。

# 令和2年度（令和元年度完了） 島根県優良工事等知事表彰

## ◇ 優秀建設技術者表彰（優良工事知事表彰）

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	矢尾今市線 大塚工区 改築工事 第20期	大福工業 株式会社 代表取締役 福代 明正	岡田 明久
	河川	午頭川 河川改修工事 第3期	株式会社 トガノ建設 代表取締役 梶野 直宏	飯濱 健
		塩冶赤川 河川緊急整備工事 南天神揚水機場下部工	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 幹晴	神谷 和宏
	港湾 空港	田儀港 港湾災害復旧工事 30災3号～7号	株式会社 安井組 代表取締役 安井 和広	福間 良信
農林 水産	農業 土木	農村地域防災減災事業 奥原地区 ため池改修工事	出雲土建 株式会社 代表取締役 石飛 裕司	原 広樹

道  
路



矢尾今市線 大塚工区 改築工事  
第20期  
(大福工業 株式会社)

河  
川



午頭川 河川改修工事 第3期  
(株式会社 トガノ建設)

河  
川



塩冶赤川 河川緊急整備工事  
南天神揚水機場下部工  
(今岡工業 株式会社)

湾  
岸  
空  
港



田儀港 港湾災害復旧工事  
30災3号～7号  
(株式会社 安井組)

農  
業  
土  
木



農村地域防災減災事業 奥原地区  
ため池改修工事  
(出雲土建 株式会社)

## 令和元年度施工優良工事等表彰式



# 令和2年度（令和元年度完了） 島根県優良工事等所長表彰

## ◇優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	出雲三刀屋線 上塩冶工区 改築工事 第8期	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 幹晴	伊藤 雅巳
		佐田八神線 大呂工区 災害対策推進工事 その2	株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	高橋 寿元
		出雲三刀屋線 上塩冶工区 改築工事 第6期	ヒロシ 株式会社 代表取締役 扇子 勇次	小谷 訓
		斐川一畑大社線 地合工区 改築工事 第8期	株式会社 倉橋工務店 代表取締役 倉橋 一喜	土江 広幸
		十六島直江停車場線 西代橋 橋梁耐震工事	出雲土建 株式会社 代表取締役 石飛 裕司	山根 幸治
	河川	古内藤川 河川災害復旧工事 30災55号、56号	有限会社 金築組 代表取締役 金築 清	河野 勇人
		塩冶赤川 河川緊急整備工事 天神団地通路橋工	ヒロシ 株式会社 代表取締役 扇子 勇次	古川 武
		常楽寺川 河川維持修繕工事	株式会社 日本海建設 代表取締役 青砥 正人	青砥 正人
	砂防	西の谷川 砂防工事 第3期	有限会社 間壁組 代表取締役 間壁 和弘	
		正応寺川 通常砂防工事 第4期	有限会社 森山組 代表取締役 伊藤 俊郎	高橋 智
都市 計画	浜山公園 擁壁改修工事	有限会社 川角建設 代表取締役 川角 宣広	川角 宣広	
農林 水産	森林 土木	緊急予防治山事業 佐田支所工区2 山腹工事	株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	糸賀 学

## ◇優良業務表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木設計	国道431号 園地区 災害防除 測量設計業務	出雲グリーン 株式会社 代表取締役 吾郷 直之	藤原 正和

## ◇特別表彰（所長表彰）

表 彰 理 由	会社名／代表者
長年の道路・河川の維持管理業務における功績が顕著であるため	株式会社 新井建設 代表取締役 新井 龍水
長年の道路の維持管理業務における功績が顕著であるため	ヒカワ工業 株式会社 代表取締役 福田 美樹

## ◇所長 感謝状

表 彰 理 由	会社名／代表者
令和元年8月に一級河川平田船川流域で発生した重油流出事故に際し 迅速且つ適確な事後処理を行った	昭和開発工業 株式会社 代表取締役 荒木 國夫

# 島根県東部県民センター所長表彰

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
建築	建築	島根県立中央病院 5階病棟改修建築工事	ヒロシ 株式会社 代表取締役 扇子 勇次	小田川 昭二

## 優良工事知事表彰を受賞して



大福工業(株)

岡田 明久

この度は、(一) 矢尾今市線大塚工区防災安全交付金(改築)工事 第20期に於いて、優良工事知事表彰並びに優秀建設技術者表彰を賜り、大変光栄に思っております。

また、この工事で御尽力いただきました発注者および地元の皆様、協力業者の皆様には心より御礼申し上げます。

本工事は、一般県道矢尾今市線大塚工区事業の道路改良工事であり、工事区間は一畑電鉄より終点側南へ約430m、工事期間は366日を要しました。

工事箇所は家屋が密集する他、保育園や小中学校、郵便局などがあり、通勤通学時間帯は狭小の道路を多くの車両や歩行者が行き交います。

今回の工事で重きを置いたのは、工程管理と安全管理、地元関係者との良好な関係性でした。

どんなに高い技術や出来形・品質管理が良くても、工程に遅れが生じたり事故を含めた災害があれば、工事関係者とその家族、地元関係者に多大なる迷惑や損害を与えてしまいます。

工事を進めるにあたり、懸念された事の一つは騒音・振動・粉塵です。特に補強土壁施工の際は、構築物から家屋までの離隔が5m程度と非常に近接したものとなり、寝たきりの御老人や夜間の勤務の方々、また保育園のお昼寝タイムへの配慮が求められました。

この対策としては、極力低騒音・低振動な建設機械を使用し、各作業工程をタイトに管理し不快な時間を短縮する努力をしました。計測機器も使用していましたが、作業中は何度も隣接する家屋に顔を見せ、コミュニケーションを取りながら進めて行きました。

もう一つに、この工事は冒頭にもありましたが道路改良工事です。延長430mの道路付属物の他、総延長1kmの用排水路のうち、現道を断ち割るボックスカルバートが4箇所あり、通勤車両、通学の生徒、保育園児200名の送迎車両の通行ルートの確保が懸念されました。

この対策としては、カルバートを2分割施工とし片側交互通行、作業時間は9:30~15:00と短縮、特に歩行者通路の確保と随時配置する5名の誘導員の教育に力を入れました。

弊社は、発注者より「特定元方事業者」の指名を受けており、数社の現場と他機関の工事の作業・工程の調整と労働災害防止について、近接工事間調整は週1回、全体調整は月1回として連絡調整会を開催していました。

また地域貢献として、特に印象に残っているのは、一畑電鉄に近接する保育園児との交流でした。

200人の園児は、施工中にも手を振って大きな声で応援をしてくれ、作業員は大変な作業の中、時折癒され活力をもらっていました。特に連絡調整会では各社に協力頂き、保育園のクリスマス会に参加させて頂き、園児との交流をさせて頂きました。

春夏秋冬366日の長い期間、地域の皆様方とのコミュニケーションを大事に思い、発注者と地元関係者、受注者が良好な関係により無事故無災害で工事完成出来たことは、大変嬉しく思います。

今回の工事(事業)は自分自身にとって貴重な経験となりました。また初心に帰り大切なことをいつまでも忘れず、一層の工夫と誠意・努力で工事に携わって行きたいと思っております。



## 令和2年度 春の叙勲 旭日双光章

### ■ 叙勲に恵まれて



### 令和辛丑新春

(株)フクダ

長岡 秀治



はや令和3年、新しく年を迎えるわけですが、「歳月人を待たず」と言う言葉が良く使われます。昨年はトランプとコロナで一年中騒いでいましたが、トランプ大統領もコロナ対策で墓穴を掘り、もう忘れ去られているようです。

やっぱりコロナは強かったと感じた一年が過ぎようとしています。春までには何とか収まり、新年度はオリンピックを始め一年間我慢した行事が全て開

催される事を祈っています。

さて、皆様のおかげで令和2年度春の叙勲を拝受する事が出来ました。しかしながらコロナ対策で天皇陛下のご拝謁もまかりならず、東京での一連の儀式は全て取り止め、6月に入り島根県の真田土木部長より頂くことになりました。

部長室では受賞者は私一人でしたが、県土木部幹部の方々と中筋豊通会長に列席して頂き、和やかな中にも整然として拝受承りました。

賜りました勲章は額に収める予定でしたので、胸に勲章を着けるのは今日しか無いと思い、帰りに写真スタジオに家内と行き、もう二度とない写真に納まりました。

振り返れば、平成23年全建表彰を受け、その後知事表彰、大臣表彰、黄綬褒章、園遊会、そして春の旭日双光章の叙勲と、大変名誉なことが続き本当に幸せ者だと思っています。

一番の思い出は、平成天皇陛下最後の園遊会に招かれ、恐れ多くも皇后陛下や秋篠宮様、高円宮久子様を始め6名の皇族と言葉を交わす事が出来た事です。

その日は朝から雨降りの一日でしたが、ホテルから近くの赤坂御苑に少し遅れたことが幸いし、遠くの方に並びましたが、前列に納まる事が出来ました。

皇后陛下は出雲の神在月、秋篠宮様は斐川町の烏骨鶏、高円宮久子様も斐伊川の野鳥の事に詳しく話したことを今でも忘れられません。

私は、鉄道土木工事を中心に技術者として過ごした若い頃、フクダの役員として工事全般を見ていた頃、そして42歳で代表取締役として建設業協会の役員として熟せた事、本当に多くの事柄があり、その都度多くの方々にお世話になり、大きな役割を全う出来た事を誇りに思っています。

そして今役職を離れ、思い出を振り返る事が出来る自分がある。有難いと思い、本当に感謝しています。

土木への道は大学入試を目指した頃から始まっていましたが、一度全国に出て厳しさを経験し、故郷に帰ったことで、改めて地元の方々との触れ合いの中で、斐川や出雲の良さを感じたものです。

地元で仕事をする事で思った事は、道路やトンネルや橋梁で苦勞した現場を完工し、竣工式に地元の方々から招かれ、喜びを分かち合えたことです。

「私達の仕事は、真の発注者は地域の方々です」

土木施工管理技士会の会長時代に皆様にお話した言葉です。私たちの仕事は地域の皆様の願いを造ると思っています。

今年は各地で新しい市長が誕生し、新たな形で発展すると思います。私達建設業協会も、若い方々を中心に皆様も力を合わせ、ふるさと出雲が大きく発展しますよう尽力願うところです。

皆様には穏やかな新年を迎えられることを心より祈念しています。 拝

令和2年度 秋の叙勲 旭日双光章

■ 御 礼



今岡工業(株)

今岡 余一良

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様、お健やかに新春をお迎えの事と存じます。昨年は何かとお世話になりました。そして、出雲地区建設業協会副会長、出雲市建設業協会会長職を退任いたしました。長きにわたり協会運営に多大なご支援ご協力頂き誠にありがとうございました。

さて、私、令和二年秋の叙勲に際し、はからずも旭日双光章の栄に浴しましたところ、協会並びに会員の皆様から早速懇篤なるご祝意を頂戴致し誠にありがとうございます。諸般の事情により去る一二月十八日、島根県庁におき、丸山知事様より旭日双光章の伝達を受けました。



これもひとえに会員の皆様を始め多くの方々の長年に亘る温かなご指導ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

私もまだ元気いっぱいであるので、今後はさらに業界を通じ社会発展と業界発展のため一層の努力を尽くしたいと考えておりますので、変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。



## ■ 島根県功労者表彰を受賞して



(株)内藤組

**内藤 和雄**

新年あけましておめでとうございます。本年は丑年です。私にとって6回目の年男となりました。今新型コロナウイルスで世界中大変な時でございますが、牛歩のごとく一步、一步、老牛で力強さは無くても、確実に前進して行きたいと思っておりますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

私事ではありますが、この度島根県各種功労者表彰をいただく事ができました。推薦をいただきました建設業協会の中筋会長を始め、多くの会員の皆様方のご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたしております。誠にありがとうございました。

私は、昭和55年（1980年）3月に出雲に帰郷しました。それから40年間、出雲の建設業界と共に歩み、そして多くの仲間を得る事ができました。その間、度重なる公共工事入札制度の改定、平成の大合併等々、多くの変化に遭遇しましたが、その度に仲間達と、時には喧嘩をし、又、酒を酌み交わしながら、知恵をしぼり、協力をし、一步、一步進んでまいりました。

私も古希をすぎ、昨年度末で業界の役職からは全て引退しましたが、この40年間は、苦楽を共にした多くの仲間を得る事が出来、悔いの無い40年間であったと、深く感謝を申し上げます。

最後になりましたが、この一年、出雲地区建設業協会が、牛歩のごとく、一步、一步、確実に前進されますよう、又、会員の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、合わせて受賞のお礼と、新年のご挨拶と致します。

ありがとうございました。

## ■ 島根県各種功労者知事表彰に感謝



岩成工業(株)

**岩成 健治**

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

私事ではありますが、この度、建設業協会より推薦いただき島根県各種功労者の土木部門において知事表彰をいただくことができました。これも会員の皆様方はじめ多くの方々にご支援ご協力を賜ったおかげと、深く感謝申し上げます。

建設業発展のために微力ながら尽くしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

平成10年から建築技術協会出雲支部の理事に就任また平成18年からは建設業協会出雲支部の理事に就任させていただきました。振り返ってみますと世界はグローバル化に向かい社会環境は急速に大きく変化し続けました。建設業界においては公共投資の減少、建設業者の減少、人手不足など取り巻く環境は厳しい現状となっております。近年、東日本大震災など地震や異常気象のため風水害など重大災害が頻繁に起き、国土強靱化計画もされており、建設業は今後も社会のために必要とされています。私は地域の業者として皆様の生活が安全で安心な地域づくりをお手伝いできるよう、努力精進していきたいと思っております。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

会員の皆様方のご健勝ご多幸を祈念し、御礼の言葉とさせていただきます。

## ■ 年男の抱負



山陰建設工業(株)

磯田 真左一

新年明けましておめでとうございます。謹んで初春のお慶びを申し上げます。

私は本年5回目の丑年の年男で還暦を迎えました。若かりし頃の60歳という言葉に持っていたイメージは「還暦おめでとう」「定年退職おめでとう」であった様に思います。60歳といえばリタイア、余生を送り始めるターニング・ポイントではなかったでしょうか。しかし昭和、平成、令和と時代が移り「人生100年時代」と言われるようになり様子が変わってきた様に感じています。現に今の60歳以上の方々は、これから60歳を迎える私より若々しく見えるから不思議です。還暦とは暦が還ること60年前に生まれてから人生が一回りしたことと言われていました。今年から二回目の還暦に向かって生きていくわけですが、その前に一度、自分の人生を振り返るよい機会かなと思いました。

私は60年の3分の2、42年間を建設業の中で生きてきました。現場の下手間作業員から始まり重機オペレーター、現場監督、工事責任者、営業、会社経営者と全ての業務にたずさわってきました。それと同時に自分の仕事に対する考え方が少しずつ変化してきたように感じています。以前の私は仕事とは「我慢」「辛抱」「先につながる」「次につなげる」という考え方で突っ走ってきました。しかし近年、仕事優先の人生から、今まで否定していた生き方にも目を向けるようになってきました。これが私の還暦ということではないかと思っています。ただ、年々多くなる病院、薬の種類と量、健康診断での再検査、現実を突き付けられて還暦を恨む事もありますが、何はともあれ振り出しから、もう少し頑張っていこうと思っています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症や近年多発する記録的な豪雨被害など、いつ何が起こるか分からない時代の中で、新しい生活様式、働き方などたくさんの変化を求められる様になりました。新型コロナウイルス感染症では厳しい状況下にある業種もたくさんあると聞いております。令和3年が全ての業種が「Win-Win」で平和の社会になることを切に願ってやみません。

最後に協会並びに会員の皆様のご発展とご健勝をご祈念申し上げます。

今年もよろしく願いいたします。

## ■ 年男の抱負



(有)ミハラ

三原 真治

新年あけましておめでとうございます。

今年の夏には、昨年から延期になった東京オリンピックの開催が予定され、さらに昨年変わった菅内閣によって、日本の社会も新たな形へと変貌する気配が感じられます。とはいえ、5回目の年男となった現在、本年の干支である丑のごとく先を急がず一步一步着実に物事を進めて行くことが大切だと感じています。

昨年は新型コロナウイルスにより、仕事や働き方に大きな影響がありました。まだ今年も油断できませんが、着実に変化しようとしています。変化を恐れることなく、変わることに挑戦していけたらと思います。

前回の年男だった時からの12年間を振り返ってみると、守り一辺倒でした。公共事業の減少による厳しさから、何とか現状維持を保持することばかりを考えていました。どうにかこうにか維持して来ましたが、変化の無い12年間でした。無為な12年間を過ごしてしまったと悲観するのではなく、種をまき芽を出し成長する時期、そして結果につながる道をコツコツ積み上げていく時期であったと前向きに捉えなければ前に進むことはできません。

ですので、新たな年を迎え気持ちを新たに、変わる勇気を持ち信頼関係を築きながら着実に業績を積み重ね、厳しい状況に立ち向かわなければならないと思います。12年後、よく頑張ったと振り返れるように成長していくことが張合いとなり、充実した日々を送ることができれば幸いです。

最後に、会員企業の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

## 安全パトロール・安全研修会報告



安全委員会

伊藤 康孝〔有伊藤工事〕

本来であれば、事業報告として全国建設業労働災害防止大会について書いておりますが今年  
は中止となりましたので安全パトロール・安全研修会について報告いたします。

例年行われております特別安全パトロール結果報告会が、11月13日(金)午後1時30分  
から出雲建設会館において開催されました。毎年島根県内の各労働基準監督署・県土整備事務所・  
建災防本部・支部・安全指導者が合同で各県土整備事務所管内の安全パトロールを行った結果  
を一同に集まり、発表する報告会です。最初に中筋県支部長の挨拶で始まり、増田次長の集計  
結果、各分会の結果発表と続き、出雲労働基準監督署 小泉労働基準監督官、島根県土木部技  
術管理課 山崎技術専門監からの講評をいただきました。最後に中筋県支部長の総括で報告会  
を終了いたしました。引き続き安全指導者研修会が執り行われ、建災防島根県支部増田次長に  
講演をいただきました。ここでは集計結果での指摘事項の多かった現地KYとリスクアセスメ  
ントの内容の具体化について主に講演していただきました。とは言え現場作業の主な職長さん方  
に、いきなり書けと言われても文章力が問われます。(私の事ですが)作業内容毎にいろんな  
事案が有りますので、慣れるまでの間は、ひな形があればそれを参考に出来れば良いと思いま  
した。さらにスマホで検索出来るソフトなら、なおさら便利と思います。ただあくまで参考資  
料として形骸化しない様に気を付ける必要はあると思います。

続いては、建災防本部の門川安全衛生管理士から重大災害が起きた時、それから起こり得る  
だろう事について講演いただきました。災害が起きた場合はあらゆる責任が発生します。現場  
の安全管理の状態にもよると思いますが刑事、民事、行政責任が起こり、対象者は会社(代表  
取締役)と現場代理人です。さらに被災された方が、下請けの場合は同様に下請会社にも責任  
が発生します。分かり易い説明ではありますが、現場代理人の職務は重責であると再確認しま  
した。安全にはお金がかかる、しかし安全はお金では買えない。この言葉が浮かんできました。  
お二人とも大変参考になる講演をなさいます。ぜひ機会があれば聴講される事をお勧めします。

最後になりますが、我々安全指導者はみなさんの現場にパトロールに参ります。忙しい日々  
の中時間を作って頂き、感謝の気持ちでお邪魔しております。現場のみなさん共に、良い所・  
指摘する所一緒に勉強する謙虚な気持ちで、同業者として安全に対するスキルを上げていけれ  
ば幸いです。分会長からの言葉「安全は出雲から」を合言葉に、無事故・無災害を達成しましよ  
う。

ご安全に!!

## 経営研修会 2020

経営改善研究委員

山根 強 [(有)山根建設]



ウィズコロナの働き方と企業のコンプライアンスについて一般社団法人島根県経営者協会 専務理事の森脇建二様にご講演いただきました。

働き方改革関連法の労働時間法制の見直しの内容やいわゆる「同一労働同一賃金」についての雇用の説明責任や近年問題となっているパワーハラスメントの防止等についての説明がありました。

労働時間法制の見直しについては働き過ぎを防ぐことで、働く方々の健康を守り、多様な「ワーク・ライフバランス」を実現できるようにすることが法改正の目的であることの説明があり、その中である部品製造工場での例で、納期に間に合わず休日出勤で納期には間に合ったが、若手の社員がそれを理由に退職された話がありました。また反対に、九州の建機リース会社では完全週休2日制を早くから導入し、顧客からのクレームもあったが業績を上げ就職希望者も絶えない企業の紹介もありました。前者の例は建設業でも同様のケースがあると思います。新卒3年以内の離職率が約40%と高い業界であります。残業や労働時間が長いことも理由にあるようです。やりがいのある仕事ですので、ICT技術の活用等、様々な手法で業務の効率化を図り、働く方の負担を軽減していくことが離職率の低減や次世代の人材確保につながることを改めて感じました。

九州の建機リース会社では完全週休2日制を早くから導入し、顧客からのクレームもあったが業績を上げ就職希望者も絶えない企業の紹介もありました。前者の例は建設業でも同様のケースがあると思います。新卒3年以内の離職率が約40%と高い業界であります。残業や労働時間が長いことも理由にあるようです。やりがいのある仕事ですので、ICT技術の活用等、様々な手法で業務の効率化を図り、働く方の負担を軽減していくことが離職率の低減や次世代の人材確保につながることを改めて感じました。

いわゆる「同一労働同一賃金」について、正規・非正規雇用の間に不合理な待遇の差をなくし、どちらを選択しても「納得」できるようにしなければならないことの説明がありました。また、雇用者は正規・非正規の賃金や待遇差のルールを明確化して説明する責任があるという説明がありました。

パワーハラスメント防止法については6月1日よりパワハラ防止措置が事業主の義務になることの内容とハラスメントに該当することなど例を挙げて詳しく説明されました。

講演を拝聴し、法律上のことも勉強になりましたが、社員の皆さんに気持ちよく働いてもらうために魅力ある職場環境をつくっていくことが何よりも大事であることを実感しました。



## ■ インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年、東部高等技術校、出雲農林高等学校、出雲工業高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

## インターンシップの受け入れ事業

～社員教育の場ととらえて～

(株)トガノ建設

弊社は出雲地区建設業協会の依頼により出雲農林高等学校及び出雲工業高等学校よりインターンシップ事業の受け入れを行っております。また、それとは別で浜山中学校からのインターンシップの受け入れも行っており、例年1年間に合計3校の受け入れを行っております。

今まで浜山中学校及び出雲農林高等学校のインターンシップは土木部門、出雲工業高等学校のインターンシップは建築部門の責任者が担当者となり、様々な体験の提供を行ってきました。しかしながら、現場を持っている忙しい担当者の業務負担の増大や、会社全体としての受け入れ意識の希薄といった課題がありました。

そこで課題を解決するため、昨年度より弊社ではインターンシップの受け入れを行うプロジェクトチームを各部門の若手社員で編成し、今まで以上の体験を提供できるような体験プログラムの作成や当日の対応などを行うように変革しました。そこでは弊社全体として取り組むことで、会社全体のPRを行うことや、インターンシップに関わる業務負担の分散を目的とすることはもちろんですが、若手社員が責任感を持ってこの業務にあたることで、今後の仕事に対する意識の高揚や様々な気付きを得る機会とすることも目的としてこのような措置を取りました。

部門を超えて連携する事業が少ないため、当初は報告・連絡・相談の欠如などにより社員間での連携がうまく取れないことや、体験プログラムの見立ての甘い部分があるなど前途多難でしたが、検討を重ねた結果、良い連携も生まれ、最終的には来てもらった生徒に良い体験を提供できたのではないかと考えています。それは後日の感想文やインターンシップを受けた生徒が求人に応募するなどの結果が出ていることからそのように推測ができます。

また、今年度は昨年出来上がったチームワークのもと検討・実施段階でスムーズにこなせており、昨年度出た課題に対する改善策を用いるなどブラッシュアップして、昨年度より良いプログラムを提供できたと考えています。

インターンシップの受け入れを若手社員に任せることで良かった点が3つあります。まず1つ目は、若手社員が会社全体のことを考える契機となったことです。若手社員は目の前に

ある仕事や、所属する現場のことだけを考えがちになります。それは仕方のないことであり、若手のうちは目の前の仕事や現場のことを一所懸命にやってほしいと考えています。しかし、若手の段階で会社全体のことを考えておくことで、中堅・ベテラン社員となった際に新たな発想で会社を変革できる土台を作ることが期待できます。

2つ目は若手社員に成功体験をさせることができたことです。普段の仕事ではなかなか成功体験を与えられることは少なく、部門を超えてプロジェクトを実施することはなおさら多くはありません。インターンシップの受け入れという会社全体から見れば小さい事業かもしれませんが、成功体験を積み重ねることで今後出てくる大きな事業での活躍も期待できると考えています。

最後に3つ目として会社全体が変わる意識を少しでも持てたことです。若手社員が新たな事業を行うことでその他の社員も協力する場面もありました。若手プロジェクトチームが頑張っている様子を多くの社員が見ており、中堅層やベテラン層などにも刺激を与えているように感じます。実際にインターンシップの受け入れをした後に、中堅層から業務の改善に関わる提案なども提出されており、会社全体が変わる意識を持ち始めているように感じています。

インターンシップの受け入れという事業は小さな事業かもしれませんが。しかしながらそれを若手の社員教育の場ととらえることで、若手社員の意識の向上にもつながり、そして会社全体へ波及効果が少しずつ生まれているように感じています。来年度以降に来る各校の生徒の皆さんに今まで以上に良い体験を提供できるように、これまでのノウハウを活かしてさらに良いプログラムの作成を期待しているところです。

今後はこのプロジェクトチームをインターンシップだけにとどまらず、会社に良い変革をもたらすような違った場面での活用も考えています。成功や失敗はあると思いますが、今後の中堅社員や経営幹部となるべき人材の教育の場ととらえて様々なチャレンジを促していきたいと考えています。



## インターンシップ体験談

### ■ インターンシップを通して



島根県立東部高等技術校

住環境・土木科2年 **森島 亮哉**

今回インターンシップで私は、6月15日から6月19日までの5日間、株式会社中筋組様にお世話になりました。技術校の実習では、感じる事ができない仕事の緊張感や現場の大変さを体験でき、とても充実した経験となりました。

具体的なインターンシップの内容は、実際の施工現場で主に測量や土木の作業を体験させていただきました。私が行かせていただいた施工現場では、地盤の改良をされていました。現場の担当者様が、私の知らない重機や現場で採用されていたRASコラム工法など、丁寧に説明していただき、難しいながらも理解することが出来ました。また、私が一番印象を受けたのが危険予知活動です。技術校の訓練でも実習前に行っていますが、実際の施工現場で毎朝朝礼時に危険な作業についての的確に確認されているのを体験させていただき、改めて事故防止の重要性、安全の大切さを感じることができました。

最後になりますが、今回のインターンシップを通して、大変貴重な体験をさせていただきました。学んだことを活かせるよう、今後も技術校の訓練の努力を怠らないようにしていきたいと考えております。5日間、たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

## ■ インターンシップ感想



島根県立出雲農林高等学校

環境科学科 2年 安喰 大胡

私は、今回、今岡工業さんにインターンシップに行かせてもらいました。最初は緊張して上手くできるか不安でしたが、現場の方たちがとても優しく接して下さり、最終日まで楽しく研修することができました。

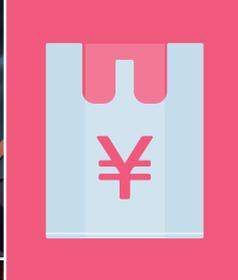
初日、しばらくは現場見学をするのかなと思っていましたが、いきなり現場で重要な作業を手伝うことになり、絶対にミスできないと感じ、緊張しました。ですが、その作業が終わった後に私たちがやったところを、もう一度現場の方が測ってみると、寸法がばっちりだったので、嬉しく感じました。次にレベルを使って実際に測点と測点までを測りました。レベル測量は学校でも何度かやっていたので、誤差もなく、しかも規格値にしっかり入っていたので、学校で学習してきたことが活かされたと実感しました。その後は橋台の計測を行いました。時間はかかりましたが規格値に入り、きちんとできたことに嬉しく思いました。また、現場の写真を撮る作業もしましたが、担当の方から一つの現場で約5000枚の写真を撮ると言われたので、想像以上に細かく撮らなければならないことを知りました。現場でやっていることをきちんと記録として残しておくことが大事であることがわかりました。またトータルステーションの据付もしましたが、慣れておらず時間がかかってしまいました。

2日目は出来形管理資料作成で、橋台の現場写真を整理する作業をパソコンで行いました。パソコンはあまり使い慣れていないので、まず慣れることからはじめ、その後資料作成をしました。この作業で、内業と外業は、どちらも同じくらい大変であることがわかりました。内業は現場写真の管理や、工事時に使うコンクリートの量を記載したり、使う材料は大丈夫かなどの資料を整理してそれを全て覚えたりしないといけないので、内業の方が私にとっては大変でした。事務所の中を見渡すと、分厚い資料がずらっと並んでおり、これを早く作成するのはすごい技術だと思いました。

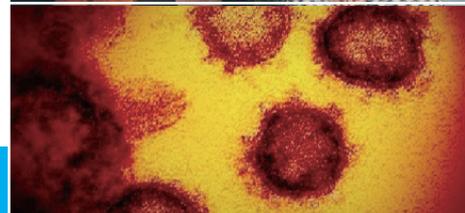
3日目は出来形測量で橋ができあがった後に測点を1点1点計測しました。実際にやってみると、本当にたくさんの測点を測って目盛りの読み間違いや測る場所が違わないように気をつけて行いました。橋ができあがってもやることがたくさんあり、1つの現場が終わるのに1年かかるのに納得できました。川の中に入って天端長を測ったりして、測量も危ないところもあるんだと実感しました。

最終日はCADで製図をしました。CADも学校ではまだ習っていなかったので、一つの図形を作るのに時間がかかってしまいました。これもすぐに完成させないと次の現場の図面が作れなくて仕事が進まなくなるので、スピードとミスのないことが大切で、どの作業も慣れることが大切であることがわかりました。

この4日間で、現場を見るだけと実際に体験するということでは全然違うということがわかりました。そして建設業の方たちが、道路などをつくることで、私たちを支えてくれていることを知り、すごいと思いました。将来建設業に携わりたいと考えているので、今回の経験を活かし、人々の役にたつ仕事をしていきたいと思っています。



# 令和2年を振り返って



## 編集後記

2020年を振り返りますと、「コロナに始まりコロナで終わる」、正にそのような1年だったのではないのでしょうか。そして、未だにその猛威を振るって私たちを苦しめています。このようなコロナ禍に於いて、私たちが生業としている建設業界は今後どのように変化していくのでしょうか。

全国的にみますと、「建設バブル」と言われるほどの高い建設需要が続いているといわれています。3年で7兆円とした「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を含む臨時・特別の措置は2020年度で終了しますが、追加経済対策として続いて5年で15兆円規模の事業予算も計画されているようです。

また、都市再開発に向けた需要、東日本大震災に端を発する日本各地の災害からの復興需要、そして首都圏の交通網、ホテル、各種商業施設を中心とする需要など、様々な因子が重なっていわゆる「建設特需」が生まれているようです。そして、この後も大阪万博に向けてのインフラ整備、カジノを新設するIRリゾートプロジェクト等、大規模な建設プロジェクトの進行が予定されています。

先に述べた新規建設だけでなく、今後は維持管理も重要になるといわれております。その背景には、高度経済成長期以降に整備された建造物の中に、今後20年で建設後50年以上に達する施設の割合が加速度的に増えることが挙げられます。そのため、維持管理の需要は年を追うごとに高まってゆくということです。

私たちが住む地方のインフラ整備も引き続き大きな課題です。建設業は地域社会の安全・安心の確保を担う、地域の重要な守り手でもあります。国道のメンテナンスといった典型的な地域のインフラ整備だけでなく、災害時の応急対応や「地方創生」への貢献など、地域の中小企業は幅広い活躍を期待されています。

「Withコロナ」の時代となり、本年度には「デジタル庁」も創設されます。建設業に於いても「ICT化」、「生産性向上」の波がこれまで以上に大きく押し寄せるでしょう。我々は今こそしっかりと地に足をつけ、変化に対応できる体制をつくらなければなりません。

経営改善研究委員会 三島 一男〔株〕ミシマ産業

一般社団法人

## 島根県出雲地区建設業協会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)